

東京ふる里岩内会会報

■発行 東京ふる里岩内会
 ■発行日 2021年10月1日
 ■発行所 和泉 剛
 ■編集 松代洋子
 ■住所 埼玉県川口市桜町
 5-7-19
 ■電話・FAX 048-281-0039
 ■メール hockeydf24@gmail.com

楽しい今日と、明るい明日が見える

No. 31 / 2021



コロナ禍にも負けない岩内会であれ

東京ふる里岩内会 会長 和泉 剛

紅葉の候、東京ふる里岩内会員の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。日頃は岩内会運営に格別のお引き立て頂き、心よりお礼申し上げます。

○未曾有の事態

岩内会の行事は、令和2年2月の新年会を最後にすべて中止にせざるを得ない事態が続いています。昭和54年に岩内会が設立されてから初めてのことで会員の皆様には、ふるさと岩内を感じて頂く機会を提供することができず申し訳なく思っています。当会の会員は高齢者も多いことからここは無理をせず耐えるべきと判断の結果です。どうかご了承下さい。齢を重ねてからの約2年の自粛生活は誠にもったいない時間となりました。

今年の総会・懇親会についても残念ではありますが現下の感染拡大状況では開催不可能と判断し中止すること致しました。

令和2年春、中国でウイルスによる新たな肺炎が発生したとの報道はあつという間に私たちの生活にも影響を及ぼし、この頃のマスク不足はまさに昭和48年のオイルショックの際のトイレットペーパー不足を思い起こされました。

○東日本大震災から10年

2011年(平成23年)3月11日(金)14時46分、三陸沖の宮城県牡鹿半島の東南東130km付近で、深さ約24kmを震源とする地震でした。マグニチュードは、1952年のカムチャッカ地震と同じ9.0。これは、日本国内観測史上最大規模の地震でした。

○岩内会と後志の各ふるさと会の展望

感じたものです。その震災から10年。その後も規模が大きくなった台風や今までにない大雨の被害が全国で発生しています。会員の皆様もどうか最近よく聞く「今まで経験したことがない」とか「想定外」の事態にお気をつけください。いね。

○岩内会と後志の各ふるさと会の展望

私は当時国土交通省の外郭団体で港湾・空港の建設、維持管理を主業とするコンサルタント会社に勤務しており、震が関の本社事務所で遭遇しました。その会社は全国に事務所を配置しており被災地である東北各県の港湾事務所にも職員を送り出していた関係で、震災直後に職員の安全確認を行ったが電話は通じずただTVで放映される映像を虚無感で見ることしかできなかつた。震災の翌月に被災地の視察・調査に同行し、真新しい基礎だけが残った住宅が建っていたであろう土地や自動車が家屋の2階に突き刺さったままの状態、さらに仙台空港では小型機が滑走路に瓦礫とともに流されていたのを目の当たりにして涙が出た。また、その会社は北海道開発局とも取引があり小樽開発建設部が直轄する岩内港にも職員を送り出したこともありふるさととの縁を

後志管内出身者で組織するふるさと会は我が岩内会以外に「東京小樽会」「東京余市会」「東京くつちゃん会」「東京ニセコ会」「東京ふるさと共和会」があります。(詳細は9ページご参照) コロナ前は、その総会・懇親会に招待され参加しましたが、それぞれのふるさと会にはそれぞれ特色がある運営をされています。そうは言っても、いずれのふるさと会も会員の減少による会の運営に頭を悩ませておりました。東京小樽会の会長が清水川さんだった時に「後志管内」のふるさと会で年に1度合同で行事を行ったらどうか?と提案したことがありました。会員の皆さんにおいても「兄弟が小樽に住んでいる」とか「従妹が倶知安にいます」とか「後志のあの距離感ですら話題が広がることも十分に考えられます。今後も実現可能か否か各ふ

るさと会と調整していかうと考えるています。

○岩内高校

創立100周年記念式典も中止に 予定では令和2年9月に盛大に創立100周年記念式典が催される筈でした。しかしながらコロナ禍でやむを得ず一年延期されることになり、その後、今年9月開催に向け準備に入りましたが、北海道に3度目の「緊急事態宣言」が発出されるに至ってやむなく中止する旨連絡がありました。当初岩内会からもこの記念式典に希望者を募り参加することも企画しておりましたがそれも叶わず残念な思いますが岩内高校の更なる発展を祈念する次第です。



「健やかな町づくりのために」

岩内町長 木村 清彦

東京ふる里岩内会の皆様、今般のコロナ過にあっても、お変わりなくお元気にお過ごしのことと拝察し、お慶び申し上げます。

また、会員の皆様には、「ふる里岩内」に深い想いと物心両面にわたるご支援とご協力を賜り、心から感謝とお礼を申し上げます。

昨年来の新型コロナウイルス感染症の発生で日本全国が非常に危機的状況になっており、今年になっても変異株などが猛威をふるってまいります。

このような中、大相撲7月場所です岩内町出身の一本山大生関が新入幕を8勝7敗と勝ち越したことは、誠に喜ばしいことであります。

コロナ禍で地元岩内からの応援もままならない中で、東京ふる里岩内会の皆様の応援があったことと感謝しております。今後も引き続き応援のほど、よろしくお願いいたします。

さて、私が町長に就任し、10月で2年が経過しようとしております。

現在、新型コロナウイルス感染症により日常の暮らしが大きく変容するなか、地方行政を取り巻く情勢はこれまでにない極めて厳しい状況にあります。加えて、少子高齢化・環境問題・情報化など、

取り組むべき課題が山積しており、産業振興施策、生活環境整備施策、福祉施策、未来を担う子供たちへの教育施策など、このコロナ禍で行政が果たすべき役割は増す一方であります。

本年度、6月に「岩内町総合振興計画」が完成し、まちづくりの基本理念である「健やかなまちづくり」を実現するため、「目指すべきまちの姿」を「生活環境」「健康・福祉」「経済・産業」「子育て・教育」「地域コミュニティ」「歴史・文化」「行財政運営」の7つ分野毎にし、今後10年間の羅針盤として、様々な施策を実施するうえで、様々な事業の見直しに着手し、町づくりの根幹ともなる施策への取り組みについて、具現化を図っていきたくと考えております。

「健やかな町づくり」の「健」という文字には体が丈夫なことや強いなどの意味があり、行動力、自らが立ち上がるという語意もあります。

私は、全力で岩内町を健やかな生活が実現できる町づくりを目指し、岩内のすばらしい自然や美味しい食べ物など、魅力を磨き上げ、躍動感あふれ活気ある町を目指していきたいと考えております。何れにいたしましても、岩内を

築いてこられた先人の気概に学び、町民皆様からお寄せいただいた信頼と大きな期待に応えるべく、全力をあげて町政の推進に取り組みで参る覚悟であります。

どうか、皆様には、今後とも変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げますとともに、東京ふる里岩内会の一層のご発展と、会員皆様の益々のご健勝とご活躍を心からお祈り申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

東京ふる里岩内会

令和3年度役員名簿

会長 和泉 剛

副会長 松下 洋房

事務局長 (兼幹事長) 中尾 興禪

理事 住吉 義弘

高松 庫雄

中井 健志

谷口 弘達

今谷 慶子

野村 健忍

本村 和也

相原 利也

納谷 眞二

辻谷 博行

泉晃 子

壁治 己

鈴木 金三

木村 清彦

伊野 達哉

中村 尚武

佐藤 幸一

川端 健繁

顧問 大石 浩之

庄崎 浩之

忠鉢 健一

川端 健一

佐藤 幸一

中村 尚武

伊野 達哉

木村 清彦

鈴木 金三

壁治 己

泉晃 子

辻谷 博行

納谷 眞二

相原 利也

本村 和也

野村 健忍

今谷 慶子

谷口 弘達

中井 健志

高松 庫雄

住吉 義弘

中尾 興禪

尾上 義禪

松下 洋房

和泉 剛

副会長 松下 洋房

事務局長 (兼幹事長) 中尾 興禪

理事 住吉 義弘

高松 庫雄

中井 健志

谷口 弘達

今谷 慶子

野村 健忍

本村 和也

相原 利也

納谷 眞二

辻谷 博行

泉晃 子

壁治 己

鈴木 金三

木村 清彦

伊野 達哉

中村 尚武

佐藤 幸一

川端 健一

顧問 大石 浩之

庄崎 浩之

忠鉢 健一

川端 健一

佐藤 幸一

中村 尚武

伊野 達哉

木村 清彦

鈴木 金三

壁治 己

泉晃 子

辻谷 博行

納谷 眞二

相原 利也

本村 和也

野村 健忍

今谷 慶子

谷口 弘達

中井 健志

高松 庫雄

住吉 義弘

中尾 興禪

尾上 義禪

松下 洋房

和泉 剛

副会長 松下 洋房

事務局長 (兼幹事長) 中尾 興禪

理事 住吉 義弘

高松 庫雄

中井 健志

谷口 弘達

今谷 慶子

野村 健忍

本村 和也

相原 利也

納谷 眞二

辻谷 博行

泉晃 子

壁治 己

鈴木 金三

木村 清彦

伊野 達哉

中村 尚武

佐藤 幸一

川端 健一

顧問 大石 浩之

庄崎 浩之

忠鉢 健一

川端 健一

佐藤 幸一

中村 尚武

伊野 達哉

木村 清彦

鈴木 金三

壁治 己

泉晃 子

辻谷 博行

納谷 眞二

相原 利也

本村 和也

野村 健忍

今谷 慶子

谷口 弘達

中井 健志

高松 庫雄

住吉 義弘

中尾 興禪

尾上 義禪

松下 洋房

和泉 剛

副会長 松下 洋房

事務局長 (兼幹事長) 中尾 興禪

理事 住吉 義弘

高松 庫雄

中井 健志

谷口 弘達

今谷 慶子

野村 健忍

本村 和也

相原 利也

納谷 眞二

辻谷 博行

泉晃 子

壁治 己

鈴木 金三

木村 清彦

伊野 達哉

中村 尚武

佐藤 幸一

川端 健一

顧問 大石 浩之

庄崎 浩之

忠鉢 健一

川端 健一

佐藤 幸一

中村 尚武

伊野 達哉

木村 清彦

鈴木 金三

壁治 己

泉晃 子

辻谷 博行

納谷 眞二

相原 利也

本村 和也

野村 健忍

今谷 慶子

谷口 弘達

中井 健志

高松 庫雄

住吉 義弘

中尾 興禪

尾上 義禪

松下 洋房

和泉 剛

副会長 松下 洋房

事務局長 (兼幹事長) 中尾 興禪

理事 住吉 義弘

高松 庫雄

中井 健志

谷口 弘達

今谷 慶子

野村 健忍

本村 和也

相原 利也

納谷 眞二

辻谷 博行

泉晃 子

壁治 己

鈴木 金三

木村 清彦

伊野 達哉

中村 尚武

佐藤 幸一

川端 健一

顧問 大石 浩之

庄崎 浩之

忠鉢 健一

川端 健一

佐藤 幸一

中村 尚武

伊野 達哉

木村 清彦

鈴木 金三

壁治 己

泉晃 子

辻谷 博行

納谷 眞二

相原 利也

本村 和也

野村 健忍

今谷 慶子

谷口 弘達

中井 健志

高松 庫雄

住吉 義弘

中尾 興禪

尾上 義禪

松下 洋房

和泉 剛

副会長 松下 洋房

事務局長 (兼幹事長) 中尾 興禪

理事 住吉 義弘

高松 庫雄

中井 健志

谷口 弘達

今谷 慶子

野村 健忍

本村 和也

相原 利也

納谷 眞二

辻谷 博行

泉晃 子

壁治 己

鈴木 金三

木村 清彦

伊野 達哉

中村 尚武

佐藤 幸一

川端 健一

顧問 大石 浩之

庄崎 浩之

忠鉢 健一

川端 健一

佐藤 幸一

中村 尚武

伊野 達哉

木村 清彦

鈴木 金三

壁治 己

泉晃 子

辻谷 博行

納谷 眞二

相原 利也

本村 和也

野村 健忍

今谷 慶子

谷口 弘達

中井 健志

高松 庫雄

住吉 義弘

中尾 興禪

尾上 義禪

松下 洋房

和泉 剛

岩内町の明るい話題

ホップ発見150年

地域ブランド産品開発に着手

明治4年（1871年）に開拓史お雇い外国人のトーマス・アンチセルによって、岩内町で野生ホップが発見されたから、今年で150年目を迎えます。

その記念すべき年に、岩内町では、地元農業者の協力を得て、歴史的ストーリー性を有する農産物である、ホップをはじめ、ホワイトアスパラガス、日本酒の原料となる酒米の栽培に着手し、岩内な

らではのブランド産品開発に取り組んでおります。

日本酒は本秋の酒米収穫後、小樽市の酒蔵の協力を得て、仕込み水に、海洋深層水と岩内岳の伏流水を活用し、2種類の純米大吟醸酒を製造いたします。

東京ふる里岩内会の皆様にもお届けする日を楽しみにしております。

変わりゆく雷電観光

再開発に期待

昭和37年の国道開通と温泉ポイントリングにより開発が進んだ雷電地区。かつては9件もの温泉宿により賑わいを見せておりましたが、時代の変化とともに、令和元年9月の三浦屋旅館閉館により、温泉宿は全てなくなりました。

現在は、イワナイリゾートを運営する企業が三浦屋旅館を購入し、新たな雷電観光の拠点として、改修工事を進めております。また、平成24年の閉館以降、廃

墟となっておりました、ホテル雷電と観光かとうにつきましましては、今年になってから解体作業が進められ、今後、新たな観光施設の整備に向けて、再開発事業が進められる予定です。

以前は、海水浴場として賑わっていた前浜は、現在は、シーカヤックなどのマリンスポーツアクティビティの拠点となるなど、雷電地区は、新しい時代に向けて、少しずつ生まれ変わろうとしております。



岩内出身力士

「一山本関」新入幕おめでとう



令和3年6月21日の番付編成会議で、岩内町出身の一山本（本名「山本大生、27歳」）の新入幕が決まり、この快挙に、地元岩内では歓喜に沸いております。

一山本関は、小学2年から相撲を始め、中学校まで岩内町で相撲に励み、大野農業高校（北海道北斗市）を経て、中央大学へ進みました。

その後、一度は大相撲への道を諦め、北海道福島町役場へ就職したものの、その道を諦めきれず、相撲協会新弟子検査年齢制限の新規定適用第1号として、厳しい勝負の世界に飛び込んだのは23歳のとき。

化粧まわしには、町のマスコットキャラクター「たら丸」と日本海の荒波があしらわれております。今後の更なる活躍が楽しみです。

一山本関特集

一山本入幕 岩内沸く
管内47年ぶり 町長「全力で応援」

6月21日に発表された大相撲名古屋場所（7月4日初日）の新番付で、岩内町出身の一山本（27）（本名/山本大生（だいき）二所ノ関部屋）の新入幕が決まり、故郷・岩内で応援を続けてきた両親やゆかりの人からも喜びの声が上がっている。

「幕内はそうそうたる力士ばかりだが、一つでも多く勝って欲しい」。一山本の父山本勇一さん（60）と母恵美子さん（56）は同日、息子の幕内昇進の発表に笑顔を見せた。

日本相撲協会によると、後志管内出身の幕内力士誕生は1974年（昭和49年）の琴乃富士（留寿都村出身）以来47年ぶりだ。

2017年の1月に初土俵を踏んだ一山本は19年の7月場所で初の十両昇進を果たした。しかし同年11月場所で負傷し幕下に転落。再び十両にはい上られるか心配されたが、今年3月場所で再び十両昇進を果たし、7月場所ですぐに入幕をつかみ取った。

町民有志でつくる地元後援会は新入幕を祝い、一山本に寄贈する座布団や着物の準備を進める。岩城直人会長（62）は「とにかくけがをせず、勝ち越しを目指してほしい」とエール。後援会顧問で、一山本を小学生の時から知る元岩内地方相撲協会会長の林幸司さん（73）は「自分の相撲を貫いて」と激励した。岩内町の木村清彦町長は「プロの厳しい世界で最高峰に入るのはとても素晴らしい。地元から全力で応援します」と述べた。

（令和3年6月22日 北海道新聞（前野貴大記者）掲載から転載）

～一山本岩内後援会入会お知らせ～

岩内町出身の一山本関は令和3年7月（名古屋）場所においてめでたく新入幕（東前頭17枚目）を果たしました。岩内町の一山本後援会会長の岩城直人さんに聞いたところ、6月末現在で後援会会員は約300名とのこと。後援会入会申込書をこの会報に同封してありますのでご興味のある方はぜひお申込みください。郷土の力士をみんなで応援しましょう。

【入会方法】

「後援会入会申込書」に所要事項をご記入のうえ、事務局まで郵送かFAXにてお届けください。同時に年会費を銀行振込でご送金をお願いいたします。

事務局

（株）富士電気内

北海道岩内郡岩内町字相生80番地1

TEL 0135-62-1072 FAX 0135-62-1094

【後援会費】

「一般会員様」 年会費 5,000円

「企業会員様」 年会費 10,000円

【会員特典】

○番付表

○カレンダー（12月送付）

【事業年度】

○毎年1月1日から12月31日まで

【問合せ】

（株）富士電気内

北海道岩内郡岩内町字相生80番地1

TEL 0135-62-1072 FAX 0135-62-1094

岩内町教育委員会

北海道岩内郡岩内町字高台134番地1

TEL 0135-67-7099 FAX 0135-67-7105

（岩内町ホームページから）



岩内町役場庁舎に掲げられた垂れ幕



十両昇進パーティで岩内会メンバーと

東京ふる里岩内会と

はまなす会の思い出

元東京ふる里岩内会 会長 小島 幸子

短い秋で寒い日と成りました。皆様ご無沙汰しております。

私は、五月はじめに手首を骨折し入院治療いたしました。時あたかも病院はコロナ対応の為、追いつてられないように四人部屋を二人部屋仕様とされ二人分のベッド代を請求されたり、リハビリは指導のみで基本的には自分でやりなさいと、散々でしたが、九月になつて箸も、ペンも運べるように成り

ました。

当時の「はまなす会」という親睦会の方々の思い出も多く、13年間の楽しい仲間との繋がりも多く若い仲間からは戻っては？と声も掛けられました。一度冷めた気持ちちは復帰を果たすことはありませんでした。岩内には度々帰省しているのに残念ですね。松代さんが忘れずに今も言つて下さり嬉しい限り。和装姿が「母

親」と思い慕つて下さり私も母性愛で二年間続けられ皆に助けられ勤めたこと、新井さんと言うマネージャーのお陰が有った事、その新井さんも五年前に亡く成り次々と友達も少なくなつて今は静かな生活の老夫婦にてボケ防止の一端で「香い袋」や「栗」を手作りし少女趣味的な自己満足の日々で頭の運動をしている毎日です。名簿に「中村力」君の名が有り大いに御活躍と伝声の程願います。郷里にて一八の孫、野澤幸平夫妻が頑張つていますし、私の甥「今泉」や協成建設「大和田」が活躍していることは嬉しく思っています。昨年夏墓参り方々富良野の

美しい花畑もタイムング良く観光することも出来、岩内ではお祭りにも昔の賑わいを思い出し涙して奴のふりを眺めました。今後のふる里どう変化するのでしょうか

コロナが、温暖化が良き方向にと祈る此の頃です。皆様には新しい感覚にてふる里にも、岩内会にてもご活躍を願います。

来年は明るい活気有る世の中を！と祈り乍ら皆様によりしく伝声下され度く乱筆乱文お許し下さい。(令和二年十月十七日に寄稿いただきました)

俺の田舎「いわない」思い出・雑感

昭和48年岩内高校卒 川村 誠

皆さん こんにちは！！

私は岩内の大火が起きる45日前に生まれ、田舎の良い空気や自然に囲まれやすく育ち、当時の西小学校、第二中学校、岩内高校と進み卒業と同時に東京と云う大都会での仕事に就くことを決め、以後60歳の定年まで何とか無事に勤め上げ、7年前に卒業しました。

その後、元の会社の斡旋もあり都内の区役所に非常勤職員として、5年間お世話になり、過日その仕事も終えこれから旅行だ、趣味だと思つていたところ、現在のコロナ騒動で自粛生活を余儀なくされています。

岩内にいた当時の思い出として

は、雷電海岸でテントを張りキャンプをしたり、高校時代の仲間と旅行をするため、その雷電に在ったホテルで布団敷きや、料理の搬送、配膳をやり、そのアルバイト代で、いろいろな所へ遊びに行つたり、キャンプをした事等が思い出されます。

その私の好きな田舎「いわない」は毎回帰省するたびに街の様子が変わっていきましたが、大型フェリーの就航ができた時には休みを取り、直江津（新潟県）から乗船したことが懐かしく思い出されます。

岩内は、道内初の水力発電、日本のアスバラガスの発祥、海洋深層水の開発販売、町を見下ろし日本海に飛び込むような素晴らしい眺めのスキー場と他にも数々の誇らしい業績もあり、帰厚院の大仏、岩内神社も道内ではかなり古い歴史があり、岩内の魅力を全国に発信し宣伝するのが、まだまだおとなしい気がします。

妻に岩内への思いを熱く話したところ

「何言つてるの、クマが出てきて街中を歩いてるんでしょ。冬は雪が降り積もり、2階から出入りするところでしょう」と、とても生活できるところではないと、笑いながら一蹴され終わりました。最近では説き伏せる力もなく平々

凡々と過ごす毎日です。

岩内にいた頃、夜にコッソリと歩いた通称「親不孝通り」、喫茶店(当時高校生は指定店があった)、すし屋、飲食店、居酒屋等が軒を並べ夜でも明るかった記憶が有ります。

現在岩内には、両親も亡く自宅も有りませんが、岩内に残り頑張っている同級生が多くいます、暇になった今、毎年とはいきませんが時々岩内に帰省したいと考えております。



岩内の想い出・昔と今

岩内会会員（札幌市在住） 八戸 光治

私が小学校の低学年の頃の楽しみは、母の実家のある泊村洪井へ行く事でした。

汽車の車窓から見える海が山が嬉しく思えたものです。トンネルに入ると慌てて窓を閉めましたね。小沢で乗り換えるか函館本線から連絡し直すかでわくわくしたこと



を覚えています。そして何と言ってもホームに売りに来る駅弁売り。駅弁とあのお茶を買い、窓枠に置いて食べるのがね。岩内駅は正面から見るとのっぺらぼうだった気がします。何せ六十年前前の記憶なのでご勘弁下さい。改札口は右側でそのまま外に出られたの覚えていません。いつ頃だったかは不明ですが、駅の入り口が手前には

び出していた玄關になっていたと思います。駅前から神恵内行きバスに乗り、発足の叔母の所で電スイカをご馳走になり、母の実家へ。ここで過ごす数日間、従弟妹達がノナとガンゼ、あわびを採ってくれ、ノナは焚き火の上に、ガンゼは割って中身をそのまま食

あわびは海水で洗ってお口へ。これが何と言っても楽しみで、今の我々の表現では正に至福の時だったと思います。

高校時代まで行きましたが、大学、就職、結婚と東京で過ごし、一昨年の暮れ、定年を期に札幌へ帰ってきました。以後、春秋とお盆に母方の墓参りに訪れ、また従妹達との付き合いも頻繁となって

月一回のペースで岩内に行き、あづま鮎という馴染みの店まで出ました。従妹達が神仙沼をはじめ色々な所へ連れて行ってくれ、熱くて入れなかったサンサンの湯（和泉さんには根性がないと笑われましたが）等、想い出が増えています。今春は岩内神社の桜が心に残り、来月はコテージ泊りを計画中です。

『岩内町制施行120周年記念式典にご招待いただきました』

北海道常駐理事 納谷 真二

昨年、12月5日（土）に開催された『岩内町制施行120周年記念式典』に道外の団体として唯一ご招待を頂き和泉会長の代理で参加しました。

当日の天候は晴れ、札幌を8時に自家用車で出発し余市まで高速道路で走り、その後は一般道で岩内地方文化センターへ向かいました。

私は洞爺丸台風が来た1954年（昭和29年）9月には、母のお腹の中にいて12月に生まれました。

岩内は、私が高校生時代（48年前）はもつと活気があったと思われ、国鉄岩内駅前には、バスセンターが併設されていて、いつも人がいっぱい居て、学生等で賑わっていたと思いがあります。今では岩内町の人口も減り、岩内線が廃止され、人影もまばらです。

その旧駅前に、木田金次郎美術館、その横に岩内地方文化センターがあり、10時頃に到着しました（私は初めて入館します）。

岩内地方文化センターに到着して中に入るとロビーに岩内町役場の方々、お迎えに出ていらっしゃる、木村町長はじめ何人かにご挨拶をして、ホールに入り席表の場所に座りました。座席表を見

て来賓で知っている方は、本間勝美氏（岩内町議会議員、岩内高校同期）、小西正尚氏（寿都町議会議長、中学校同級生）2名で、談笑をして式典を待ちました。

開式のことばに始まり、先人の霊に対し黙祷、国歌演奏、木村町長の式辞、各来賓の挨拶が終わる。

その後に青年商工会議所の皆様の元気を誓いのお言葉があり、岩内にこのような元気で賢い青年達がいるのが心強いと思えました。

アトラクションで岩内高校の空手道部の演武、太鼓局による元気な演奏が披露され、元気をいただきました。

最後に岩内町議会議長により、お礼のお言葉、閉式のことばで



式典が閉会となり、皆様は随時解散して私も会場を後にしました。帰りに、岩内高校の同級生2名に会い、昼食を取り札幌へ帰宅し任務終了。

2025年には、札幌市から共和町までの高速道路が開通予定とも聞いています。

岩内が楽しく、何度も足を運びたくなる町になることを、切に願っております。

ふるさと岩内の想い出

昭和40年岩内高校卒 平野 稔

♪ 兎追いしかの山 小 馳せたのではなからうか？昭和40年時代半ばになってから作曲は鳥取県出身の岡野貞一、作詞は長野県出身の国分学者である高野辰之によるものと判明したそうなの。

東京ふる里岩内会のテーマ曲である小学校唱歌「ふるさと」は長い間作者が不明のままであつたためかこの故郷の舞台やモデルとなつたのは、一体どこだろうと誰もが自分の故郷に思いを

雷電海岸。秋には遠足で行つた遠別荘、鳴神の滝での山ブドウ摘み。冬には近くの野山での山菜採り。夏には級友と遠泳を競つた赤灯台と白灯台間の往復、潜つてはあわびやウニを取つて食べた敷島内・

岩内へは毎年お盆時に父母が眠っている岩内墓園（在野束）に兄弟5人、伴侶揃つての墓参です。せめての親孝行ですが、去年今年コロナの影響でままになりませんでした。

私にとつてのかの山は観音山、岩内山、雷電であり、かの川は野東川、堀株川です。

春には近くの野山での山菜採り。夏には級友と遠泳を競つた赤灯台と白灯台間の往復、潜つてはあわびやウニを取つて食べた敷島内・

このところ一人、また一人と岩内時代にも遊び、机を並べた友達が鬼籍入りし、切ない気持ち

鋼板を切断加工・組立溶接し工場での山ブドウ摘み。冬には近くの野山での山菜採り。夏には級友と遠泳を競つた赤灯台と白灯台間の往復、潜つてはあわびやウニを取つて食べた敷島内・



昭和48年に岩内高校を卒業後、すぐに大手重工業の造船メーカーに就職しました。

入社後間もなくオイルショックとなり、当時独身寮に住んでいたのですが、トイレットペーパー

の確保に苦労したのを覚えていてます。その後不況と共に造船業から撤退し橋梁製作の部門に社内ですり続けられました。

橋を造つて40年、

地図に残る仕事を続けて

昭和48年岩内高校卒 平野 晃

手がけた有名な橋は東京湾横断道路・レインボーブリッジ（東京）・横浜ベイブリッジなどがあります。北海道では室蘭の白鳥大橋などが代表的な橋です。業務は橋の製作を担当しております

海上に架ける長大橋などは、工場まで完了させ海上クレーンで現地で運び一括架設する方法がとられています。製作から現地架設完了まで工期が短いもので1年、長ければ開通するまで10年以上かかる橋もあります。昔の苦労したエピソードとして、

鋼板を切断加工・組立溶接し工場での山ブドウ摘み。冬には近くの野山での山菜採り。夏には級友と遠泳を競つた赤灯台と白灯台間の往復、潜つてはあわびやウニを取つて食べた敷島内・



令和2年8月28日竣工 九州地方整備局向 筑後川橋全景

一杯です。合掌で一杯です。合掌♪志を果たして いつの日にか帰らん 山はあおき故郷 水は清きふるさと♪

生まれ育つた岩内から本籍を内地（大阪↓京都↓静岡↓東京）に移してはや半世紀が過ぎ、いまや「ふるさと」は遠くにありて思うもの。そして「ふるさと」になりました。

それにしても唱歌「ふるさと」はなんと美しく心地良い響きと郷愁に満ちたメロディーと詩だろうか！聞くにつけ歌うにつけいつも心の琴線を震わせるのを禁じえません。

さて今年のふるさと納税ではどんな海の幸、山の幸をゲットしようかな？もちろん岩内産です。

海上に架ける大ブロックの橋梁を出荷するため毎日夜遅くまで作業しているときに塗装が広い範囲で剥がれてしまう施工不良が発生し補修塗装で昼夜問わずの突貫工事により無事納期に間に合わせたことなどが思い出されます。

現在は第一戦を退きましたが橋を造る関連会社に移籍した今も橋を造り続けています。

製作に関わつた橋の竣工検査に立会い最終的に道路となつて地図に残る仕事をしていることに誇りをもっています。妻と旅行へ行く機会があるとバスの車内からいろいろな橋を眺め橋のうんちくを言い聞かせてはカメラに収め、楽しい旅をするのが大好きです。

追悼

郷土館館長

「故坂井弘治氏」

副会長 下田 和房

黒松内中学の校長を最後に教職を退職し、その後、郷土館の館長になられたのを機会に、岩内会に入会をされて十数年になっておりました。

特に岩内会の総会にあたっては、多大なるご協力をしていただきました。

総会にもはるばる岩内から、何度も参加されていた事が思い浮べれます。又、やむを得ず欠席する時には、必ずと言っていいほど、抽選会用にと、岩内の名産品を送ってくださいました。この様な時には、会員に少しでも渡るようにと、数量でも気配りをしてくださいました。

私も毎年のように岩内に行き、その都度、坂井館長とは雑談を交わしていましたが、何時も岩内会の事を思い、気遣っていただきました。本当に長い間、有難うございました。

尚 坂井弘治様は、没後叙勲「正六位瑞宝双光章」を受賞されておりです。岩内会にとつては、まさに巨星落つの思いです。合掌
(令和二年十二月十一日 永眠行年八十二才)

郷土館館長奮戦記

―身から出た錆―

坂井 弘治

「なあに先生、館長室に座つてればいいんだから。」「非常勤ですから。」

「来館者数にはこだわらんで下さい。」つてなこといわれてその気になって、

館長になつたら大違い、と、誰かの歌ではないがなつてみて驚いた。日々目の回るような忙しさで、昨年の4月は、初出勤以来2週間以上休館日も含めて連日出勤した。

その忙しさは今も続いている。やらなければやらなくてもいいのだが、性分としてはそうはいかない。ついついあれやこれやとやり始めるのだから、忙しくなるのは当たり前で、女房などは身から出た錆と同情してくれない。

多忙の原因の一つが今年から始めた年4回の企画展である。

この10月の中旬からは、最後の企画展「岩内古地図展」が11月末まで開催される。岩内は歴史が古く裕福であったため、明治の初めから各種市街地図や港湾地図が出版され、それを展示するという企画だ。

この地図の中に非常に面白いというか貴重なものとして「昭和13年第7師団町内宿泊図」という地図がある。これは、この年行われ

た秋季演習終了後実際に兵隊が泊つた家とその人数が掲載されたものだ。(明治時代から羊蹄山麓での演習の後、それまで露営で過ごしてきた兵隊が民家で布団の中で休むのは岩内と決まっていた。

第7師団の兵隊全員を収容できる町は、岩内しかなかったためである。彼等は、岩内で2日間ゆっくり休養した。当然ロマンズも生まれた。地図上には赤鉛筆で、いろんな書き込みがあり、当時実際に使われたものであることが分かる。

また、この時、町外れで観兵式を行つているが、一番良い席は当然来賓席だが、次に良い席がなんと岩内高等女学校に与えられている。この事実をどう考えるか。あれこれと面白い想像が沸く。

多忙の原因の二つ目は、来館者への説明である。

私は、団体は勿論だが、個人であつても来館者に打診して、承諾を貰えば案内をすることにしている。そうすることで、私自身の勉強にもなるしお客さんの生の反応を知ることができ、それを館の経営に役立てることができるからだ。

このお客さんとのやり取りで異口同音に出てくる言葉に、「岩内の文化って凄いですね。」「こんなところ(こんな片田舎という意

味)にこれほどの文化や歴史があつたなんて・・・。」「館内がきれいで良く整理されてますね。」「展示物が豊富ですね。」「うちの町に(関係者に)見せたい。」というお褒め言葉が圧倒的に多い。このような言葉に励まされてやる気がありますます生まれる、というわけで、まさに教育は教える育てでなく、おだて育てるだな、と改めて思っている。

(2005年郷土館館長就任時のブログから転載)

故前田豊秋様を偲んで

副会長 尾上 興禪

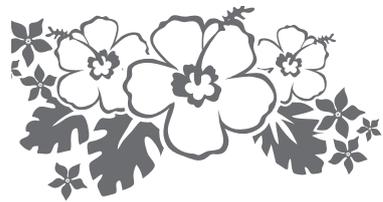
永年に亘り当会にご貢献され、ご尽力頂いた、故前田豊秋様(名誉顧問)のご冥福をお祈りしつつ、想い出を綴らせて頂きます。

毎年九月末から十月初旬に掛けて代々木公園にて催されてきた「北海道産直フェア」にて、当会のブースに奥様と供にお元氣にお見えになり、多くの岩内の特産品を十数件の親戚、知人、友人の方々

の所へお贈りされてきました。当日のスタッフ6人で前田さんご夫妻と楽しく会話を交わしつつ、発送の手配をしたものです。その時に前田さんが「毎年、自分の自慢のふるさとの味を贈る事で、岩内にはこんな美味しい品が沢山あるんだと知ってもらい、その人が周り

「来年もお会いしましょう」と前田さんご夫妻は夕暮れ時の帰路に就かれ、私たちはそのご夫妻の仲睦まじい後姿をお見送りした次第であります。

一昨年の前田さんとの想い出を綴らせて頂きました。(昨年、産直フェアは中止) 改めて、故前田豊秋様のご冥福をお祈り申し上げます。 合掌



ふる里岩内・ゆめの会

(略称)「ゆめの会」近況

理事 野村 健 司

標題のような呼称を覚えておられますか。

数年来、会長了解の下、東京ふる里岩内会(略記 岩内会)の会合や会報で紹介、ご案内させて頂いておりましたが具体的なグループ活動に至っておりません。

岩内地方の諸事万般(過去・現在・未来)につき、関心、興味、思いを共有する者同士、少人数のグループで、意見・知見を交わし、広め、深めて楽しむ会です。コロナ時世を経て、その意義・目的はより重要性を増していると認識し、「ゆめの会」として新たな思いで向き合いたいと考えています。

具体的には小グループ立ち上げ準備段階で、各位と事務方(世話役他)の間で関心事項の提起・確認を重ねるなど、一定の共通事項ごとに対応する小グループ立ち上げに向けて、世話役として協力させて頂きたいと考えます。

各位におかれましては関心事に付き、随時、何度でもお寄せ頂ければ幸いです(複数歓迎)。個人情報取り扱いには最大限留意することとします。

○連絡先(世話役・岩内会事務局長)
・野村健司
TEL: 090-12901-1243
E-Mail: kenji.kei@ezweb.ne.jp
・高松庫雄
TEL: 090-11699-16020
E-Mail: kurao-t@beige.palala.or.jp

後志の各ふるさと会紹介

(敬称略)

ふるさと会名	役員	会員数
東京小樽会	会長 成田 芳生	約320名
東京余市会	会長 毛利 衛 副会長 山田 萬里子	約140名
東京くっちゃん会	会長 高木 武良 事務局長 吉田 穰	約120名
東京ニセコ会	会長 穂山 貞夫 副会長 羽生 昭三	約110名
東京ふるさと共和会	会長 菊地 利男 副会長 山本 洋三	約110名

(ご参考)

東京ふる里岩内会	別記	約250名
----------	----	-------

【新入会員】

加入時期	会員名	お住まい	岩内との関わり
令和2年10月	小森 慎也	東京都品川区	岩内高校S48年卒
令和2年10月	吉田 哲太郎	東京都中野区	故吉田浩一郎氏子息

追記

・ゆめを持つことはコロナ時世を生きる元気の源。個々のゆめは小さくてもその集積はゆめの柱となり、岩内会としての共有の知産ともなり得ます。後世代の人々の何らか参考になれば幸いです。

・退職後、墓参で岩内・共和へ行く(帰省)機会が多くなり、その都度郷土館に坂井館長を訪ね、多岐に亘って歓談させて頂き、啓発を受けたことが「ゆめの会」の発想に連なっております。故坂井弘治様へ心からの感謝と追悼を申し上げます。

岩内会の役員会は下の4部会で構成し、個々の役員の方々には次の通りの持ち場で活動してもらっています。皆さんぜひ応援してください。

東京ふる里岩内会 令和3年の体制と担当理事

(令和3年4月以降の体制)

会 長 和 泉 剛 ・ 副会長 (会長代行) 下田 和房

幹事長・事務局

総務部会

〔主な活動内容〕…総会・新年交礼会等の企画運営
東京ふる里岩内会の重要会議 (総会・新年交礼会・顧問役員合同会議・定例役員会等) の調整及び企画運営を行う。

〔構成メンバー〕 ◎中村 力 副会長兼幹事長
○武井 俊達理事 ○相原 正利理事
○長谷川弥座理事

事業部会

〔主な活動内容〕…会員相互の親睦イベント企画運営
会員相互の親睦を目的とした、春の観桜会・日本ハムファイターズ応援等の企画運営を行う。

〔構成メンバー〕 ◎住吉 義弘 副会長
○谷口 弘子理事 ○本村 和也理事

産直部会

〔主な活動内容〕…北海道フェア、総会の出店運営
ふる里岩内の魚介や農産物を、毎年開催される北海道フェアin代々木の専用ブースで、来訪者に紹介・即売会を実施する。また、東京ふる里岩内会総会においても同様の出店を企画運営する。(収益部門)

〔構成メンバー〕 ◎尾上 興禪 副会長
○今 慶範理事 ○渡邊 忍理事
○壁 治己監査役 (兼務) ○中村 健志理事 (兼務)

広報部会

〔主な活動内容〕…東京ふる里岩内会会報発行
会報の寄稿依頼・とりまとめ・印刷手配等を行い、毎年10月に「東京ふる里岩内会会報」として発行する。
⇒ホームページ立ち上げ、Facebook等を駆使し若手会員増強方法の研究

〔構成メンバー〕 ◎松代 洋子 副会長
○相原 正利理事 (兼務)

特命 (ゆめの会) 担当

○野村 健司理事

各地常駐理事

北海道常駐 納谷 真二理事	名古屋常駐 辻 博行理事	大阪常駐 泉 晃子理事
------------------	-----------------	----------------

事務局

〔主な活動内容〕…会運営の諸業務・会計
各事業部のサポートと、会員名簿の管理、会計 (決算) を担当

〔構成メンバー〕 ◎高松 庫雄理事 (事務局長)
○中村 健志理事
○本村 和也理事 (兼務)

監査役 壁 治己
監査役 鈴木 金三

新型コロナ雑感

元東京ふる里岩内会会長

中村尚武

今世紀に発した人類と新型コロナウィルスとの戦いは、後世の世界史の一頁として記憶されるに違いない。昨年初頭より、ざっと一年半に及ぶ世界のウィルス感染者数は凡そ2億人、その内死亡者は、440万人と推定され、更に今後の増加予測は不明だという。新型コロナの猛威は、世界の政治・経済に大きな打撃を与えたが、時に人間関係の根幹を形成する社会の価値観、即ち法社会に於ける道徳律、或いは公共福祉に対する規範を問う結果となった。かつて我々が経験した第二次世界大戦に於ける緊急事態下のいわば公権と私権とのせめぎ合い、摩擦と不信が至る所で露出するの知らされた。

街に出てみる。
銀座のライオンも渋谷のハチ公



銀座のライオン

もいつの間にか大きなマスクをし、生憎の雨に心なしか妙に痛々しい。そして今はやりの流行語「三蜜」(密閉・密集・密接)と「巣ごもり」を道行く人々に訴えている。従来からの慣習の否定、著しく拘束され、萎縮を要求される日常に正直疲労を覚える。

折しも六月某日、インドBBCニュースの配信に心が痛んだ。「インドの聖なる川インダスに、数日多くの死体が流れ着き、或は川面に漂い、付近の住民達に引き上げられた遺体は、周辺から集められた薪で茶毘にされるが、やがて薪も底をつき、やむなく川岸に手掘りの穴で土葬されるが、それも寄せる水勢でやがて土が削られ、腐爛死体となって再び露出する」と報じられる。

類似の風景を想い出される。鴨長明の「方丈記」の一節がそれである。十三世紀、平家没落に始まる鎌倉源氏の政権移動の頃、養老年間は打ち続く天災(台風・火災・地震)に加えて飢饉と疫病が追い討ちをかける。
(歩くかと思えばすなわち倒れ伏しぬ。道のほどり、飢えと死ぬ者の類数知らず。取り捨てるわざも知らねば、臭き香世に満ちて、変わりゆくかたち、ありさま、目もあてられぬこと多かり。いはんや、河原などには、馬・車のゆきかふ小道だになし)
死体だらけで馬車すら通れる道はないという。放置された死体で鴨川の河原はまさにこの世の地獄だと長明は強い筆致で、世の無常を記述する。

インド人口13億7000万人、ウィルスワクチン接種率僅か2割だという。そしてインドに限らず世界の到る所にまだ多くウィルスによる修復し難い傷あとが散在しているという。
ふと日本歴史の中にもこれに

コロナ禍で世界中が騒然としている中で一年延期のオリンピックが開催された。世界の至る所で発生する紛争・分断・貧困など、通常なら集まらない205カ国の選手・関係者がスポーツの名の下に東京に集まって来た。これは奇跡といつて良いのではないだろうか。世界中の人達が前述の困難に遭遇しながら、一握りの勝者の歓喜だけでなく、数多くの敗者の流す涙の中に、忘れかけていた人間の純粹で透明な心が呼び戻され、揺さぶられ、酔いしれる。そこには、最早無観客も開催に対する冷やかな世論の介入も許さない。スポーツだけが持つ汗の力をまざまざと実感させる。

心に残る話題もあった。今回のコロナ感染初期の対応では優等生と目されていた台湾が、突然ウィルス感染拡大に襲われた。防疫の鍵であるワクチン調達が遅れた。どの国民も皆腕をまくり、その投与を今や遅しと順番待ちしている時である。台湾から日本にワクチン不足の窮状が訴えられてきた。強い国民世論に支えられ政府は動いた。かつて、十年前東日本大震災の折、真先に、そして素早く、多額の義援金と救援物資を送って被災に痛んだ日本をなぐさめ、励ましてくれた記憶がよみがえってくる。電撃的早さで乗客無きコロナワクチンの貨物だけのJAL便が台湾の空港に飛んだ。
対中国との複雑な関係の中、臆することの無い人道上的問題としての行動であった。台湾政府はその空港到着を状況中継すると共に、「日本からの温かいご支援、わが国の政府と国民は永遠に心に留めておきます」と報じた。
更に、多くの感謝のメッセージの中に、SNSを通じ台湾の一市民は「As an old saying goes, "A friend is friend indeed". (まよかの時の友こそ真の友) 日本の皆様ワクチンありがとう。感動で涙が止まりません。」
今回のコロナ禍は、世界中に大きな犠牲を強いたが、一体それは我々に何を残し、何を考えさせ、そして何を語ろうとしているのだろうか。

第43回 東京ふる里岩内会総会・懇親会 コロナ感染症拡大で今年も中止

皆様に毎年楽しみにして頂いている「東京ふる里岩内会」総会は、ご承知の通り感染拡大の傾向が収まらない状況下ですので、今年も中止とさせていただきます。なお来年は、令和4年11月12日（土）に開催予定ですので役員一同、皆様のご参加をお待ちいたします。

年間行事予定

1. 令和三年総会・懇親会 「中止」としました。
2. 新年交礼会 令和4年2月予定
3. 桜鑑賞会 令和4年3月予定

☆2.、3. につきましては、国のコロナ感染に伴う緊急事態宣言、まん延防止等重点措置の発令状況を基に、開催可否判断を行い、ご案内いたします。

事務局からの お知らせ

◎当会は、皆様から頂いた貴重な年会費で運営されております。同封の振込用紙に必要事項をご記入いただき、郵便局窓口若しくはATMでお手続きをお願い申し上げます。尚、お振り込みはお早めにご対応頂きますようお願い申し上げます。また、不明な点は事務局までご連絡いたします。

☆年会費 二〇〇〇円

☆振込番号

『〇〇一四〇一四一七〇一九〇三
東京ふる里岩内会』

☆事務局連絡先

事務局長 高松
〇九〇一六九九一六〇二〇

計 報

吉田浩一郎さん(91) 令和2年7月(逝去)
前田 豊秋さん(89) 令和2年11月(逝去)
坂井 弘治さん(82) 令和2年12月(逝去)
心から冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

思いもかけない新型コロナウイルスは、今年になっても猛威を振るい、全ての行事が中止に。会員同士の唯一のコミュニケーション・ツールが会報だけに。今年も12頁で発行できたのを嬉しく思っております。

ご協力有難うございました。来年こそ元気で会い出来るものと信じております。
松代 記